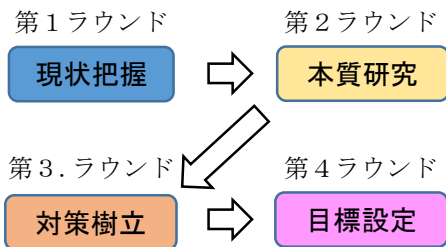
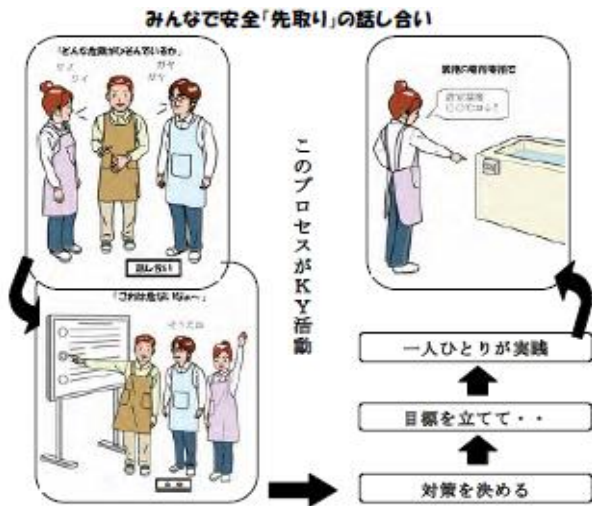


当社で推進するKK活動と従来のKY活動の違い…

KY活動

○KY活動とは

危険予知活動はKY活動・KYKともいい、職場や作業現場で起こりうる災害を未然に防止するための活動です。まず、作業開始前に起こりうる災害を想定します。どうすれば災害を未然に防ぐのか、ベストな対策を立てるための想像をふくらませるのです。実務経験がある人ほど、豊富な経験で想像力を働かせることができるでしょう。そして、災害が起きないための防止対策を立てていきます。この一連の流れが危険予知活動です。



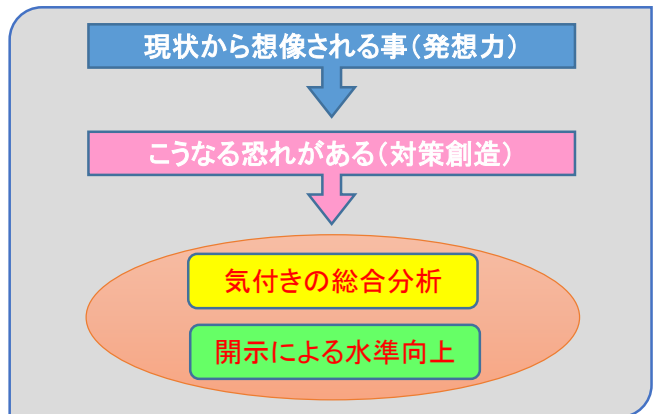
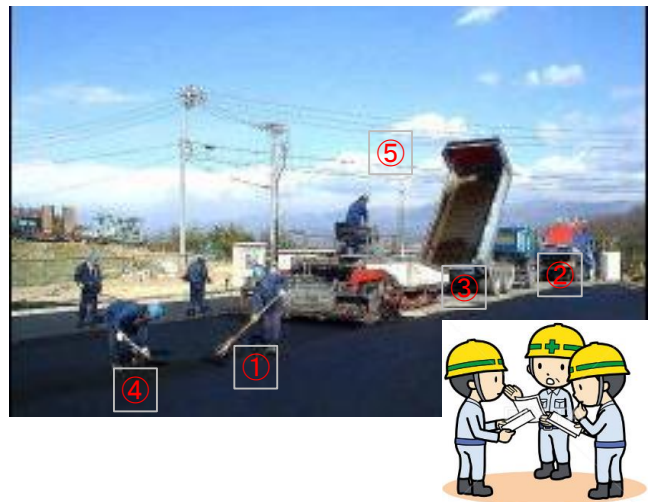
KY活動は、想定された現状把握から目標設定迄、事象の本質を見抜き、一つの目標に絞り込んでいき、その内容に見合った活動を実践していくこと。つまり、焦点を絞りこんでいく活動がKY活動といえます。

KK活動

○KK活動とは

気付き向上活動は当社で考えた造語でKK活動といえます。職場や作業現場で起こりうる事象をシートを見ながら危険・課題・問題点等に気付く能力の向上を目指しており、いわゆる感性を磨く事を主眼としています。災害を未然に防止するため、作業効率を向上させるためなど「何故・何故」とあらゆる想像をふくらませ、掘り下げを行い、週次単位で総合分析を図り「発見」を公開して気づきの間口や水準を「見える化」して個人・組織の資質向上を図り、対策を履行できる人材を育てる活動です。

身近な作業写真から「気づき」の量を挙げる



KK活動は気付き能力の向上を目的としております。事故の多くは当事者のウッカリ・ボンヤリ・思い込みといった人間特性が起因していることは統計的に確認されています。その為、これまではその特性を上回る他人の注意や指導によって解決を図る傾向にありましたが、他人の力も所詮は当事者の意識によって成果は大きく変わってしまいます。いっそ、当事者自身の認知能力を高める訓練を重ね無事故の職場を築こうとするものです。因みに、「7つの間違い探し」ゲームでは人により得意不得意がハッキリします。感性の高い人ほどよく気づくと思いますが、はじめから感性が高いのではなく普段から感性を磨く行動を取っている結果が現れているのだと思われまます。このことに着目し感性を磨く習慣(訓練)を毎日の作業開始時に行うものです。

KK活動の要点 ～質と量の関係～

何事も、最初はどんなに一生懸命良いものをつくらうとしたり、最高のパフォーマンスを出そうと思っても100%のものを生み出す事は出来ません。

何故なら、そこには「スキル」「センス」「コツ」「知識」といったものが不足しているからであり、その為に練習を積み重ねる必要があります。

そうすると、最初は「うまくやったり」「いいものを作る」為の原資が少ないため、やればやるほど失敗する機会が多くなる。つまり、「作業量（気づき）」が増加すると比例して「失敗数（マンネリ）」も多くなります。

ところが、その状態を積み重ねていくと「スキル」「センス」「コツ」「知識」といったような原資が備わってきます。

そして、これらの原資がある一定ラインまで達したところで、壁を打ち破る現象が起こり、今度は逆に『失敗数』が減少していくのです。そして、この壁を打ち破る現象が現れるのが早いか遅いかは、作業の取り組み方によって変わってきます。

1. 量をこなして自然に質に転化されるケース
2. 量をこなしながら、質に転化するにはどうしたら良いか試行錯誤し工夫を行う

つまり、量をこなしていく中でその中で生まれた「失敗」を自分の「経験」として意図的に取り込む事、又は、気づき量を分析して水準向上策の為に不足している部分に『水を向けてあげる』により壁を打ち破る現象に達するための原資を増やしていけるかどうかというのが重要なのです。

KK活動により資質（感性）を磨く。（資質とは『発見数』・『スピード』・『背景』）

KK活動をやってみよう。（危険察知）

事故の殆どは、不安全行動（ヒューマンエラー）が引き金となっています。この不安全な行動に着目して、自ら「気づく」「掘り下げる」資質の向上の為に実施しています。

不安全行動を引き起こす原因は下表のとおり様々な原因があります。その原因に自らが気付く事が資質の向上に繋がります。

人間特性	①人間の能力では出来ない「無理な相談」「出来ない相談」 ②取り違い、勘違い、考え違い等の判断の「錯誤」「誤判断」 ③ウツカリ、ボンヤリの見間違い等 ④思い込み
教育・訓練不足	安全な作業の進め方に関する教育・訓練不足
ルール違反	決められたルールを守らない等近道反応・省略行為